

牛の異常産3種混合ワクチンを接種しましょう！

牛の異常産の原因は、ウイルス・細菌等の病原体だけでなく、栄養障害や遺伝的要因等があります。その中でもウイルスは、蚊やヌカカ等の吸血昆虫が媒介するため、夏期に妊娠牛がウイルスを持った吸血昆虫に刺されると、感染して異常産を引き起こしてしまう可能性があります。異常産は経済的被害の大きい疾病ですので、ウイルスによる異常産を予防するためには、繁殖牛に対し、毎年吸血昆虫が活動する前に、異常産ワクチンを接種することがもっとも有効な手段です。

昨年度は、九州各地でディアギュラウイルスの抗体陽性例や、ディアギュラウイルスの関与が疑われる異常産事例が散発しており、今後も注意が必要です。

家畜保健衛生所では、異常産の事例について、ウイルス感染の有無や栄養状態の検査等を実施しておりますので、異常産を確認した場合は御連絡ください。

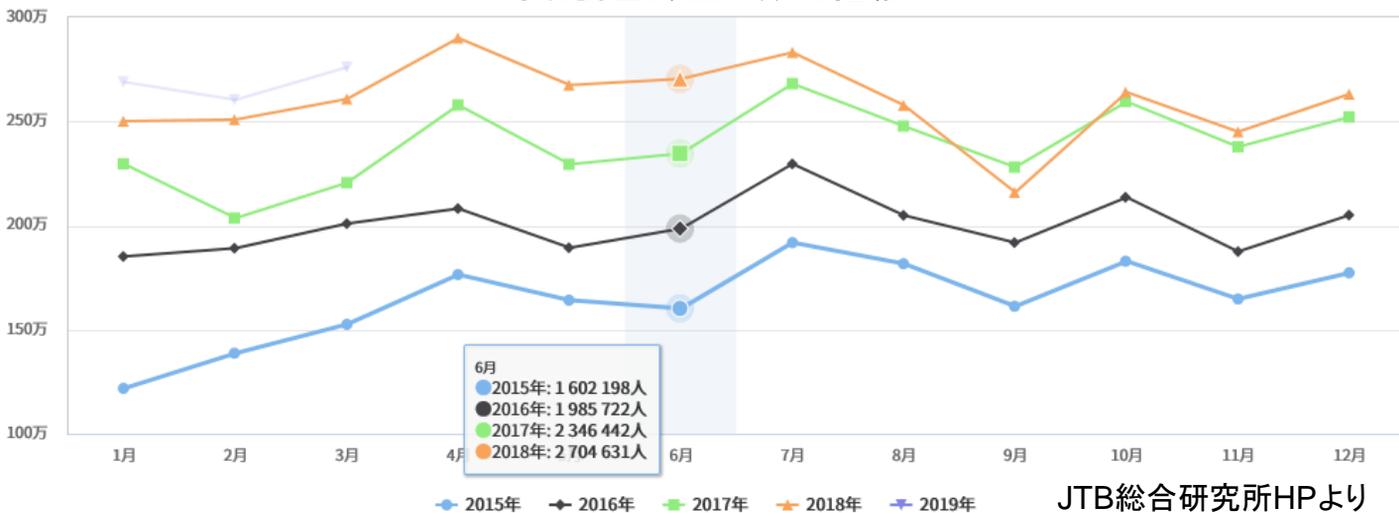
<主な異常産関連ウイルス病について>

疾病名	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症
発生時期	夏～翌年春	秋～翌年春	夏～翌年春
臨床症状	水無脳症（大脳欠損や小脳欠損）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産・死産 ・脊柱のわん曲 ・起立困難 ・盲目等の神経症状 ※ピートンウイルス感染症も同様の症状	<ul style="list-style-type: none"> ・虚弱、盲目、起立不能 ・体形異常はない ※ディアギュラウイルス感染症も同様の症状	<ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産・死産 ・脊柱のわん曲 ・起立困難 ・盲目等の神経症状

夏の間も気を緩めずに！

6月に入り、気温が高い日が続いたり、梅雨で雨が続きたりと、暑熱・湿気対策が重要な季節がやってきます。「暑い時期は家畜疾病は出ないだろう…」と、気が緩んではいませんか？海外諸国で発生が継続している口蹄疫やアフリカ豚コレラの疾病は、人や物の移動で日本に侵入することが危惧されています。そして、6月・7月は海外からの旅行客が多い季節です。「どこから疾病が入ってくるかわからない！」という気持ちで、引き続き飼養衛生管理基準の遵守について御指導よろしくをお願いします。

月別訪日外国人数の推移



夏場の死亡牛レンダリング処理およびBSE検査の対応について

夏期対応期間 令和元年(2019年)7月1日～9月30日

開場日

休業日

月曜日～土曜日

開場時間

午前 8:30～11:30

午後 1:00～3:00

毎週日曜日・祝日

※8月15日(木)はお盆休みです

(株)熊本蛋白ミール公社

TEL: 0968-26-3766

夏場は死亡牛が腐敗しやすいため、土曜日のレンダリング処理の対応時間を延長します。腐敗牛と認定されると、月齢に関係なく一律に「腐敗牛処理料35,000円」が徴収される場合がありますので、ご注意ください。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地(国)	畜種	発生日月日
アフリカ豚コレラ	香港(1件)	豚	令和元年5月2日
	中国(5件)	豚	令和元年5月18日 ～令和元年5月29日
	北朝鮮(1件)	豚	令和元年5月23日



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

令和元年6月1日時点

